

スタジアムに関する確認事項について

1 スタジアムとシビックプライドの関係性

(1) プロスポーツが醸成するシビックプライド

これまでの学術研究や関連調査において、スタジアムにおける観戦体験、特にスタジアムを訪れ、その地域や都市を代表するチームを応援する行動が、地域や都市への愛着・誇りを高め、シビックプライドの醸成に寄与することが示唆されており、スタジアムには、このような数字で表せない効果もあるものと考えている。

○ スタジアム・アリーナ改革指針 スポーツ庁(2016)

スタジアム・アリーナに足を運び、地域を代表するスポーツチームを応援し、一喜一憂を経験することで、地域住民のアイデンティティや愛着の形成につながる。

○ 「プロスポーツ・ファンの愛着とスポーツ観戦者行動」二宮浩彰(2010)

観戦に対する関与が高いファンほど、地域同一性や地域依存性といった地域への愛着が強く、また、同一地域に拠点を置いている他のプロスポーツの観戦意図が高い。

○ 「Jリーグクラブの「ファンづくり」と「まちづくり」の有機的關係構築の検討—ファンのチーム・アイデンティティと地域意識のクラブ間比較分析から—」藤本淳也ほか(2013)

Jリーグの3クラブを対象にチーム・アイデンティティを分析した結果、チーム・アイデンティティが、地域意識を高める可能性の十分な示唆は得られた。

○ 「スポーツと地域活性化 コロナ禍を経て見直される社会的価値—日本スポーツ産業の過去と未来 アフターコロナを見据えて(第2回)」野沢亮太(2021)

調査の結果、「愛着」「誇り」の両面において、ホームゲーム観戦経験がある川崎市在住の方が、より高い値を示したことがわかった。

スタジアム・アリーナおよびスポーツチームの存在が、スポーツの観戦やスポーツ活動への参加を通じて、地域のコミュニティを強化し、地域アイデンティティの醸成に貢献していることは、スポーツの社会的価値といえる。

(2) まちの誇りとなるスタジアム

本市が目指している「鹿児島らしさ」を感じられるスタジアムは、桜島や錦江湾の眺望が
楽しめ、鹿児島食や文化に触れることもできる施設であり、さらに、本市の自然景観や街
並みとの調和に配慮したデザインで整備することにより、地域のシンボルとして市民・県民
に愛され、まちの誇りとなるスタジアムになるものと考えている。

<眺望が楽しめるスタジアム>

錦江湾・桜島の雄大な鹿児島らしい景色を一望することができる展望デッキを備えることで、新たな眺望スポットとして国内外にPRできる場になると考えている。

市民や観光客などが日常的にアクセスできる展望デッキは、本市特有の景観を誰もが楽しめるスポットとなり、他都市のスタジアムと差別化を図ることができる。

○ 展望デッキからの眺望イメージ



ドルフィンポート跡地等



住吉町15番街区

2 観光交流拠点機能及び食文化発信機能をもたらす効果

集客施設であるスタジアムに観光交流拠点機能や食文化発信機能を併設し、旅行者でもある観戦者やイベント参加者に対し、県内の観光地等に関する情報提供や、食をはじめとする鹿児島県の魅力をアピールすることで、さらなる消費拡大、波及効果が見込めるとともに、試合等のマスコミ報道を通じた鹿児島県の情報発信にもつながるものと考えている。

なお、現在、計画が進められている長崎や広島スタジアムにおいても、スタジアムを核としたにぎわい、交流、回遊性向上などの機能整備が図られているところである。

(1) 観光交流拠点機能

鹿島など県全体の魅力発信拠点、試合等の来場者を観光客として県内各地の観光地に送客する観光案内拠点や、鹿児島県のスポーツレガシー／レジェンドに触れられるミュージアム



観光案内所（センテラス天文館）

出典：かごしま市観光ナビ

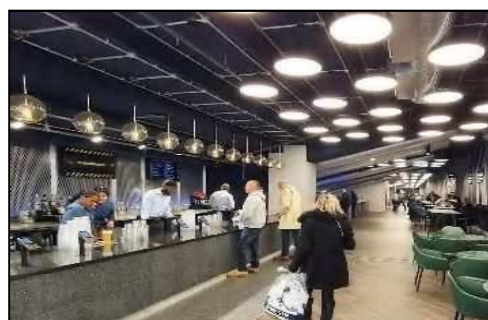


カシマサッカーミュージアム

（カシマサッカースタジアム：茨城県鹿嶋市）

(2) 食文化発信機能

- ・鹿児島県の食材、食文化に触れることができる
カフェ・レストラン・バー
（ケータリング対応：多機能化）
- ・鹿児島県の食材を活かした特産品・伝統工芸品の販売（複合施設としての導入）



トottenham・ホットスパー・スタジアム（イギリス）

3 経済波及効果（サマーナイト大花火大会との比較）

項目	スタジアム（A）	サマーナイト 大花火大会（B）	比較（A／B）
来場者数	43万人（注）	7万人	6.1倍
来場者による 経済波及効果額	約63億円	約6.7億円	9.4倍

注） サードプレイス・展望デッキ等利用者を除く。

※ スタジアム需要予測等調査・整備検討支援業務最終報告は、QRコードからご覧いただけます。

